

2023年 3月期 第3四半期 決算説明資料

誇れる歴史がある
創りたい未来がある



株式会社 浅沼組
東証プライム市場
証券コード：1852

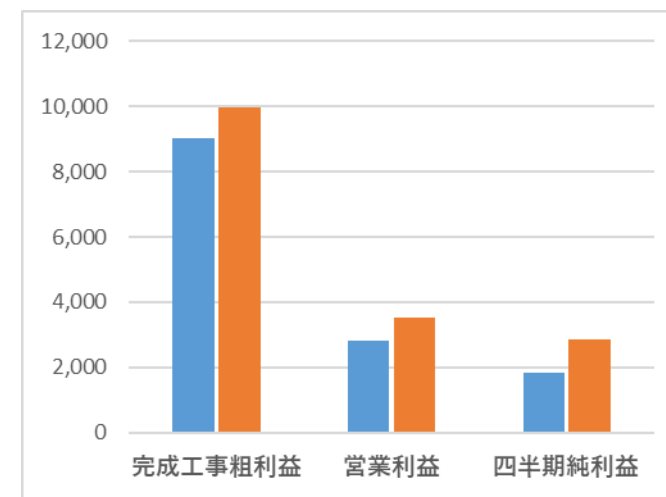
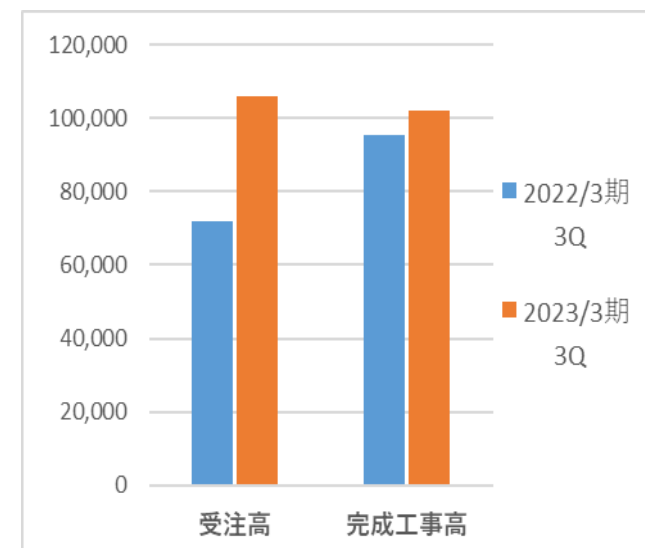
ページ	項目
P 3	2023年3月期 第3四半期 連結業績
P 4	2023年3月期 第3四半期 連結進捗
P 5	2023年3月期 第3四半期 受注状況
P 6	中期3ヵ年計画の主な施策
P 7	リニューアルの現況
P 8	『ReQuality』の推進
P 9	リニューアル技術の高度化
P 10	ASEAN地域におけるリニューアル強化
P 11	サステナビリティの推進
P 12	Topics

2023年3月期 第3四半期 連結業績



(単位：百万円)

主な経営指標	2022/3期	2023/3期	
	3Q実績	3Q実績	前期比
受注高	72,098	105,807	33,709
完成工事高	95,455	102,155	6,700
完成工事粗利益	9,021	9,953	931
完成工事粗利益率	9.5%	9.7%	0.2P
営業利益	2,812	3,517	704
親会社株主に帰属する 四半期純利益	1,827	2,867	1,040



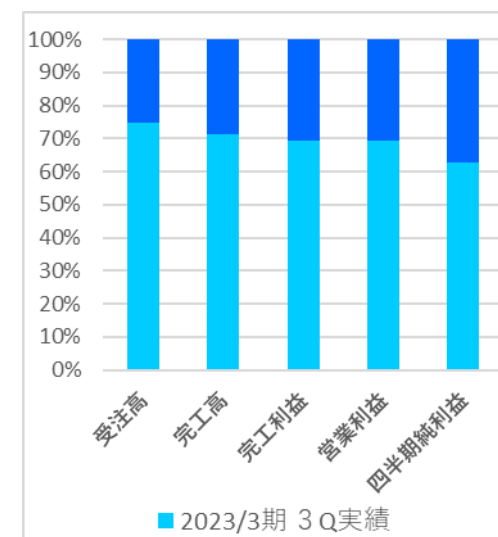
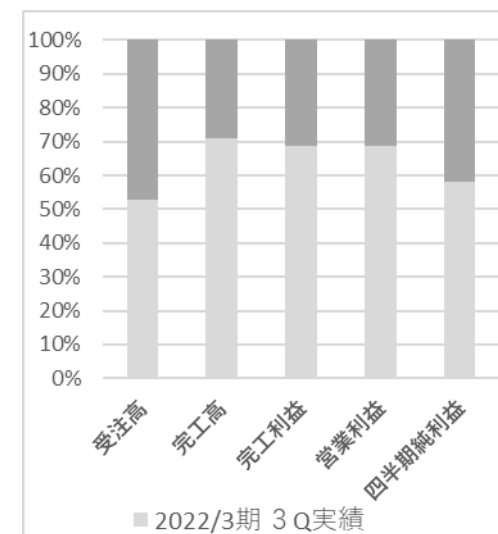
2023年3月期 第3四半期 連結進捗



(単位：百万円)

主な経営指標	2022/3期			2023/3期		
	3Q実績	実績	進捗率	3Q実績	計画	進捗率
受注高	72,098	136,568	52.8%	105,807	141,600	74.7%
完成工事高	95,455	134,407	71.0%	102,155	143,300	71.3%
完成工事粗利益	9,021	13,136	68.7%	9,953	14,340	69.4%
完成工事粗利益率	9.5%	9.8%	—	9.7%	10.0%	—
営業利益	2,812	4,835	58.2%	3,517	5,610	62.7%
親会社株主に帰属する 四半期純利益	1,827	3,748	48.7%	2,867	4,120	69.6%
配当 (配当性向)	—	363円 (78.1%)	—	—	*191円 (74.8%)	—

* 弊社は、2022年8月1日付で普通株式1株につき2株の割合で株式分割を行っており、2023年3月期の1株当たりの配当予想については、当該株式分割後の金額を記載しております。



2023年3月期 第3四半期 受注状況

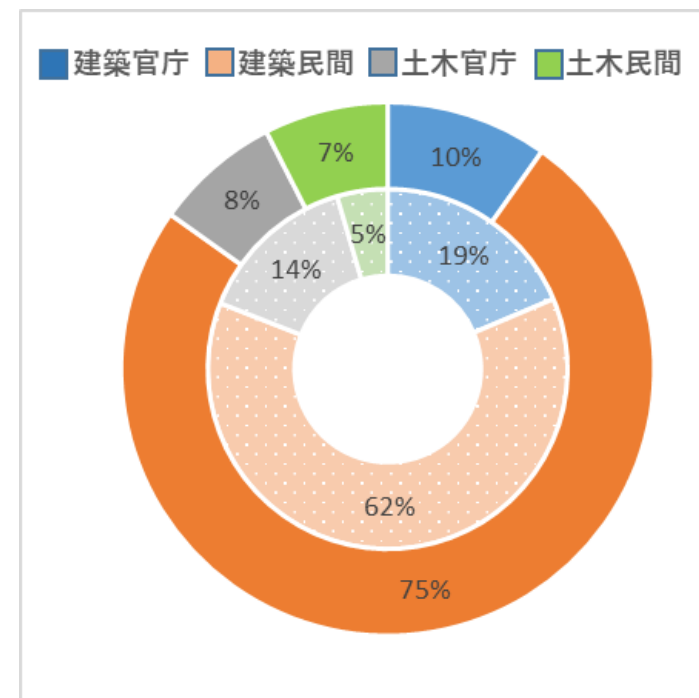
(単位：百万円)

		2022/3期	2023/3期	
		3Q実績	3Q実績	前期比
浅沼組	建築	56,998	83,583	26,584
	官庁	13,123	9,675	△3,447
	民間	43,875	73,907	30,032
	土木	13,408	14,942	1,533
	官庁	10,210	7,521	△2,688
	民間	3,198	7,421	4,222
	建土計	70,407	98,526	28,118
	官庁	23,333	17,197	△6,135
	民間	47,074	81,328	34,254

海外子会社 計	1,690	7,293	5,603
---------	-------	--------------	-------

連結	72,098	105,807	33,722
----	--------	----------------	--------

※連結調整後



— 基本方針 — 浅沼組らしさ(独自性)を深耕させ 「変化に挑戦」

外部環境変化 への挑戦	★ 長期的に縮小する国内建設投資とインフラ・建築構造物の老朽化により 堅調に推移する国内維持・修繕事業投資
	1. 『ReQuality』 リニューアルブランド戦略の推進 2. リニューアル技術の高度化 3. ASEAN地域におけるリニューアル強化
	★ 建設分野における生産労働人口の減少
	1. 協力会社との協働推進 2. DX推進
★ 非財務経営活動(ESG・SDGsなど)による企業評価向上の機運	
1. エコフレンドリーASANUMA21の推進 2. サステナビリティの推進	

目標

2024年3月期に建築リニューアルの営業利益を連結営業利益の35%に

建築リニューアル 計

(単位：百万円)

	2022/3期	2023/3期	
	3Q実績	3Q実績	前期比
営業利益シェア	32.3%	30.4%	△1.9P

* 第3四半期の算出よりASEAN子会社ののれん償却費を含む

国内 建築リニューアル

受注高	12,382	14,887	2,504
完成工事高	12,142	11,455	△687
営業利益	928	285	△642
営業利益シェア	33.0%	8.1%	△24.9P

ASEAN 建築リニューアル

受注高	1,690	7,293	5,603
完成工事高	1,282	7,496	6,213
営業利益	0	1,058	1,057
営業利益シェア	0.0%	30.1%	30.0P

名古屋支店改修PJ

環境に寄り添いながら、健康で快適なオフィス空間

建物の利用者の健康や快適性を評価する
「WELL認証ゴールド」を取得
(築30年のオフィス全体の改修での
認証取得は日本初)



循環型の環境配慮ビルとして長期的な視点をもったデザイン

グッドデザイン・ベスト100に選出
(主催：公益財団法人日本デザイン振興会)



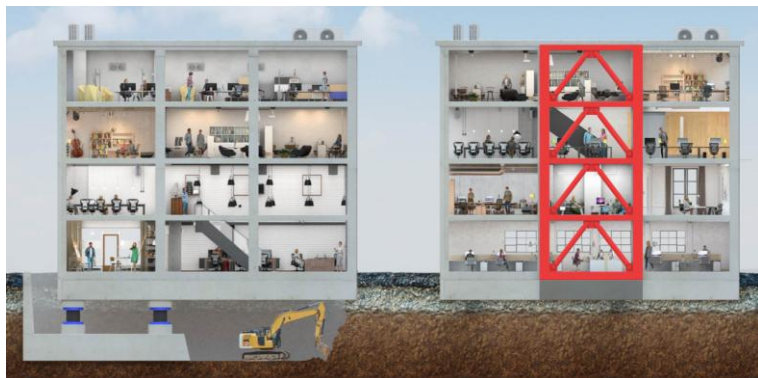
その他 受賞一覧

- ・ crQlr Awards (サーキュラー・アワード) 2022 アーバニズム賞
- ・ Sky Design Awards 建築部門Silver賞
- ・ 第1回SDGs建築賞 準グランプリ
- ・ 中部建築賞

耐震補強提案

○免震や制振構造に改修

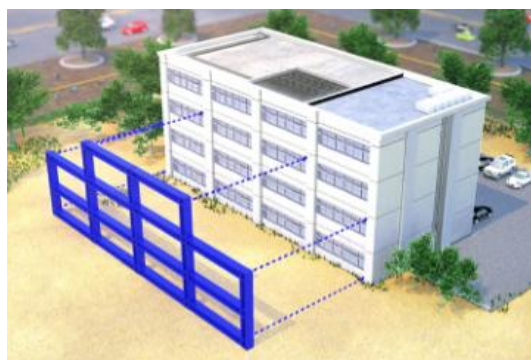
建物の使用を継続しながら施工が可能



免震ダンパーによる補強 制振構造による補強

○自由度の高い耐震工事

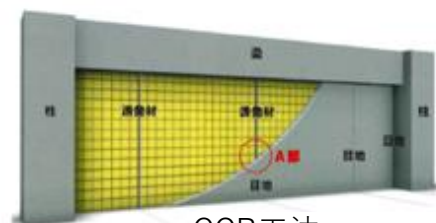
建物の外壁から補強する工法で建物の用途に合わせた施工が可能（フィルフレーム工法）



長寿命化による低炭素化へ

○長寿命化のための技術力

- ・コンクリートのひび割れを制御（目地へ誘発）し、壁面や床面にひび割れを起こさずきれいな状態を保存でき、長寿命化に寄与（CCB工法）



CCB工法



床CCB工法

- ・CCB工法を適用した壁面の目地にひび割れを分散させる材料（PRS）を充填し、壁面に貼った壁紙へのしわを最小化

PRS 目地充填工法



PRS目地



PRS 目地充填材

(単位：百万円)

海外子会社の現況

シンガポール

名 称	取得	事業内容	2023/3期 3Q実績		
			受注	完工高	営業利益
SINGAPORE PAINTS & CONTRACTOR PTE. LTD.	2018年10月	建物塗装・修繕工事	3,410	2,398	30
EVERGREEN ENGINEERING & CONSTRUCTION PTE. LTD.	2022年1月	建物メンテナンス 電気・設備工事	3,883	5,098	1,028

タイ

JICA（国際協力機構）SDGsビジネス支援事業 普及・実証・ビジネス化事業の進捗について

株式会社浅沼組、東レ株式会社、東レインターナショナル株式会社にて、炭素繊維シートによる橋・高架橋の補強事業を推進中

- ・2021年にJICA SDGsビジネス支援事業に採択。2023年1月に事業の契約を締結。
- ・現在、タイ国運輸省道路局所管の橋・高架橋の補強工事の施工を弊社子会社にて準備中。

「サステナビリティ推進委員会」の主な取り組み

① 環境経営推進に向けた取り組み

環境経営検討ワーキンググループを設置し技術面から検討
技術発表会での「環境技術賞」創設

② TCFD（気候関連財務情報開示タスクフォース）関連活動の推進

気候変動関連の中長期的目標
原単位目標に総量目標を追加

③ 人権方針、調達方針策定

サステナビリティ基本方針に加え、人権方針、調達方針を策定し、HPに開示

④ パートナーシップ構築宣言

取引先や価値創造を図る事業者との連携・共存共栄を進め、新たなパートナーシップを構築することを、「発注者」側の立場から宣言。



⑤ その他の検討課題

サステナビリティ経営における「KPI」並びに、人的資本に関する施策の策定に向けた検討

D X活用モデル初弾 使用5技術が決定 四国整備局 23年3月に現地見学会

四国地方整備局の建設DX技術活用モデル（選択肢型）工事の初弾となる「令和4年度今治道路五十嵐高架橋下部P47・P49工事」で使用する技術が決まった。施工を担当する白石建設工業が日本建設業連合会（日建連）インフラ再生委員会の「建設DX事例集」から選んだ。日建連が現場条件に適合している技術かどうかや使用したい時期に支援可能かどうかなどを確認。四国整備局と白石建設工業の3首で調整を行い、5技術をマッチングさせた。

選定した技術は鹿島の教育訓練。工事場所は愛媛県今治市と清水建設の「リアルタイム自動配筋検査システム」、不動テトラの「点群データを活用した構造物の施工管理」、三井住友建設のリアルタイム鉄筋出来形自動検測システム「ラクカメラ」、建設、三井住友建設の技術

DX事例集番号	会社名	事例名	事例集掲載ページ
29	鹿島	AI配筋検査システム	57
42	清水建設	リアルタイム自動配筋検査システム	83
71	不動テトラ	点群データを活用した構造物の施工管理	141
74	三井住友建設	リアルタイム鉄筋出来形自動検測システム「ラクカメラ」	147
82	浅沼組	VRによる安全教育訓練	163

をそれぞれ試行する。不動テトラの技術はP47橋脚で試行する。橋脚完成後にヒートマップを作成でき、躯体表面の出来栄や評価など出来形管理への活用が期待できるという。現場のVR（仮想現実）モデルを作成し、足場設置などの安全教育訓練に役立てる浅沼組の技術は、モデル作成に時間を要するため、今回は一般的なVRモデルを提供してもらい、安全教育訓練に活用する。

各技術は2023年2月上旬から順次現場で使用する。四国整備局は同3月上旬をめどに現地見学会を開催する予定だ。地域の建設業をはじめ、周辺の高校生や技術系大学生、小中学生とその保護者にも声を掛ける。企画部技術管理課の水野臣洋課長補佐は「建設業は大きな転換期を迎えていると知ってもらい、最新技術を使用することでインフラメンテナンスで安全な建設業となることをしっかりアピールしていきたい」と見学会開催に意欲を見せる。「建設DX技術活用モデル（選択肢型）」の試行工事は四国整備局独自の施策で一般土木C等級を対象としている。特記仕様書で日建連インフラ再生委員会の「建設DX事例集」に掲載された技術を推奨事例として紹介。受注企業がその中から1技術以上を選び現場に導入する。機械資材やシステム構築費など必要な追加費用は変更契約でできる。地域建設業で課題となる生産性向上を後押しするとともに、業界の魅力を高め、担い手の確保につなげる。

協力会社と「協働」 浅沼組



浅沼組は10月28日、「協力会社協働による作業所生産性向上策の表彰式・発表会」を開いた。各作業所から広く募集した生産性向上策の中から、社員投票と審査によって選ばれた「社長賞」3件と「優秀賞」2件を表彰。受賞事例5件の発表もあった。

表彰式・発表会に先立ち、同社生産性向上委員会の高見錦一副委員長は「この発表会をきっかけに今後知恵を出し合い、より多くの生産性向上策や創意工夫を集めていきたい」と協力会社との協働の重要性を改めて訴えた。

この取り組みは、協力会社で構成する「弥生会」との定期的な意見交換会から生まれた取り組みの1つで、これまで4回目となる。受賞事例は次のとおり。
〈社長賞〉

- ▽駅構内におけるかみ合わせ鋼板使用と鋼板の分割及び運搬の工夫（JR大阪府東区2作業所（ポンドエンジンアリンク）▽高き9層の大断面SRC柱躯体工事の工期短縮と作業効率UP（仮称）センター株式会社湾岸弥富PD7）
- ▽新築工事作業所（吉重町）
- ▽地中障害撤去とアースドリル杭の同時施工による生産性向上（仮称）上野二丁目ホテル計画新築工事作業所（東洋テクノ）。
- 〈優秀賞〉
- ▽メインアリーナ置構設置（揚重機の軽減）（仮称）菊陽町総合体育館新築工事作業所（ジエコス）▽高層マンションのMB内配管支持について（タワー・ザファースト）（R3）作業所（稲垣設備工事）。

2022/11/8 日刊建設通信新聞

浅沼組 ASEANリニューアル事業戦略 インフラ補強事業を推進 東レの炭素繊維シート駆使

ASEAN（東南アジア諸国連合）地域でのリニューアル事業の推進に力を入れている浅沼組は、東レが提供する炭素繊維シートを駆使したインフラの補強事業に取り組み、老朽化が進む高速道路や橋梁などインフラの劣化問題を解決していくことが狙い。タイを一つのターゲットにして、同様の課題を抱えている周辺各国へのビジネス展開を進める方針だ。

途上国の課題解決に役立つ技術や製品、ノウハウを活用してビジネス展開を目指す。国際協力機構（JICA）の「SDG」を戦略的開発目標として、東レの「炭素繊維シート」の活用可能性を、技術・製品の活用可能性を、発射する「案件化計画」に統合し、2021年4月から次のステップとして「策定・検証」を推進する。ASEAN地域での「炭素繊維シート」の活用を、これまでも推進してきた。同社は6月にタイの道路や橋梁のメンテナンス事業を展開するための新会社「Thai Asanuma Holding」を設立し、東レの炭素繊維シートを使って、課題に進展するインフラ劣化の課題に向き合う。

「これまで活用してきた炭素繊維シート」による補強技術の駆使で、今後のニーズに応じ、12月から2023年1月末までの期間に橋・高架橋の補強事業を進めていく。炭素繊維シートを使った補強工事スタイルの短縮した寿命（5年）の延長（10年）を実現する。

2023/1/20 日刊建設通信新聞

2022/12/22 日刊建設工業

The Asanuma logo, a stylized human figure in blue and red.

株式会社 浅沼組

2023年3月期 第3四半期

誇れる歴史がある
創りたい未来がある



お問合せ先

コーポレート・コミュニケーション部
Tel 06-6585-5500 Fax 06-6585-5556
Mail asanuma_ir@asanuma.co.jp